

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1173100304		
法人名	有限会社ヘルパーステーション		
事業所名	有限会社ヘルパーステーションあにもの森		
所在地	埼玉県熊谷市野原135-6		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、緑豊かな環境にあります。建物もログハウス風の心温まる作りとなっております。室内もふんだんに木を使い優しく癒や誘う雰囲気でお過ごし頂けたらと思っています。  
この建物の中にショートステイの施設も併設しております。また、敷地内には有料老人ホームも合わせて併設しております。皆様のニーズと状態に合わせ実際に体験しつつ御利用をお選び頂けたらと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・法人の理念の基、事業所独自の目標として、3ヶ月毎に行動指針が作られ、職員はどのように行動できたか、目標とする基準に達しているかを振り返り、利用者1人ひとりに寄り添い、個性や好みを活かして生活していただくように努められ、技能実習生を受け入れたり、子ども食堂のサポートなども行われている。  
・運営推進会議は、多方面の参加を得て対面で再開され、利用者や事業所の状況や、海外からの人材確保、看護師からの感染対策の説明が行われるなど、運営に活かされている。  
・目標達成計画については、運営推進会議が多方面の参加を得て対面で再開され、利用者や事業所の状況報告や看護師による感染対策の説明などが行われ、年6回開催のめどがついたこと、年2回の避難訓練・通報訓練が行われ、水害の心配がないことも確認され、災害別のマニュアルも整備され、ソーラーパネルの設置や停電時のマニュアル作成も行われていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分たちを取り巻いている、地域に感謝しさらに貢献し恩返ししていこうとする理念です。社員全員で毎朝復唱しています。	法人の理念の基、事業所独自の目標として、3ヶ月毎に行動指針が作られ、職員はどのように行動できたか、目標とする基準に達しているか等を振り返り、利用者1人ひとりに寄り添い、各人の個性や好みを活かして生活していただくように、努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入 自治会長、民生委員からの聞き取りなど定期的に行っています。	コロナ禍でまだ制限はあるが、近隣の散歩や花見ドライブなどが行われたり、技能実習生を受け入れられている。また、法人として、熊谷市拠点の女子ラグビーチーム(アスカル熊谷)に協賛されたり、子ども食堂に寄付を行うなど、関係の継続に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の勉強会に取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様やご家族の要望への取組を相談している。	運営推進会議は、家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター等の参加を得て対面で再開され、利用者や事業所の状況報告、海外からの人材確保や看護師からの感染対策などの説明が行われ、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度、運営指導がありました。日々の疑問点や実情を踏まえて随時、電話等で確認しながら日々協力関係を構築している。	市、及び、大里広域圏組合とは、報告や情報交換、相談等が行われるなど、良好な関係が築かれており、自主点検表による点検も毎年行われている。運営指導で非常口の外に植木鉢を置かないようにとの指摘があったとのこと。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について学び、法令にも定められているよう、定期的な研修を受けています。職員間で疑問点について相談できる環境整備に努めています。	「職員研修」と「身体拘束廃止委員会」が毎月行われているが、職員間で身体拘束のグレーゾーンを学習するニーズがあるとのこと。また、運営推進会議での啓蒙と学習も行われている。現在、身体拘束を必要とする利用者はおられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間ですぐに相談できる環境と、職員に負担の無いよう、管理者も業務の見直しを随時見直しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の成年後見人制度を利用している利用者様はいらっしゃいませんが、年1回の勉強会は行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてはその都度、ご家族に説明し納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族からの要望は随時伺っています。また、年1回外部評価の機会を設けています。さらに契約書に、国保連、行政等への相談することができることを伝えています。	利用者からは、日々の関わりの中で、家族からは、洗濯物の取り次ぎや面会時、及び、運営推進会議に参加をいただいた折などにコミュニケーションを深め、意見や要望を汲み取るように努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会を開催しています。1号館内でも、リーダーを通じて聞き取りも行っています。	月1回職員会議が開催されているが、事前に管理者不在で職員のみで話し合い、職員が話し難いことは、リーダーがまとめて会議に臨み、また管理者からの提案もリーダーを通して行うなど、話し易い環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、開設者の面談を実施しています。運営方針を月1回の定例会にて代表者より職員全員に職場環境の整備の状況等を説明している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は毎月開催。研修担当を作り現場で必要で急務と思われる内容のものを研修している。個別の先輩職員による面談も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能なかぎり、ご本人からの聞き取りにより、要望や不安に感じていることを確認して解決案を提示しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能なかぎり、ご家族からの聞き取りにより、要望や不安に感じていることを確認して解決案を提示しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談にいられた時にお困りの状況や施設側の対応できる範囲を当てはめてみて、最善の方法を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様との仕事という関係性ではなく同じ時間を過ごしている者同士という感覚で接していて信頼関係を築いていることは言うまでもなく実施しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族においても仕事という関係性ではなく同じ時間を過ごしている者同士という感覚で接していて信頼関係を築いています。来所時には必ず様子をご報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症流行時の現状では厳しいが、ご家族や近隣の知人との面会や外出は奨励しています。実際の面会の実施、オンラインでの面会等どちらも選択できるように勤めています。	外出制限は続いているが、家族との面会や外出は可能な限り行われ、孫の誕生日などの家族の祝い事への参加も密にならないように注意を払っていただくことで支援され、馴染みの関係が切れないように努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活している仲間としてADLを考慮し、食事席や入浴の順、居室なども勘案してきめています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、その配偶者だったり、ご親戚だったりご相談には随時、乗って差し上げています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向の把握は常に行うようにしています。生活歴だったり、ご家族からの聞き取りだったり参考にしています。	1対1で利用者がリラックスされているときに根気よく話しかけ、「好きだったこと」や「慣れ親しんだこと」などを聴き、意思疎通の困難な方は行動や反応をよく観察することで、思いや要望の把握に努め、好みのことを行っていたりなどの支援に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設利用前のご家族からの聞き取りにより必ず確認しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現場にて日誌やケース記録、ご本人との対面等で現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の思い解決しなくてはならない課題を話し合い計画を立て、モニタリングを行っています。	利用者担当・管理者・ケアマネジャーを中心にモニタリングが行われ、本人や家族の要望と医師の意見を得て話し合い、適切な介護計画が作成されており、運営指導でモニタリングの期間が3ヶ月で良いことも確認されている。また、「LIFE」の導入も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌やケース記録は毎日プリントアウトして仕事前に読み込んで業務に入るようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況・状態把握時に現状にそぐわない時、担当者会議でいろいろな角度からアプローチできる体制を整えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	熊谷市のホームページや市報を確認しご本人が心身の力を発揮できる場所があるかを確認しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携の構築を実践している。訪問診療の際には、付き添い状況をお伝えし、外部への受診では日ごろの様子を報告書として家族様にお渡しして、受診後も、医師からの返信を貰い確認しています。	入居時に協力医療機関と従来のかかりつけ医の選択の説明がなされ、協力医療機関を選択される方が多いが、従来のかかりつけ医や専門医の受診は家族協力を原則に、状況を正確に伝えるために連携書を渡したり、必要に応じて管理者による送迎が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録や申し送り等で情報を共有している。その情報を受診時や通院時に活用できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も、MSWとのやり取りができるよう努めています。また、病院への電話は混み合うため、地域連携室への直通電話番号なども、お教えいただき活用しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や終末のあり方、施設での対応の限界(医師が常時いるわけではない、夜間は看護師もいない状況)を説明しています。	入居時に、利用者と家族に対して終末期に向けた事業所の方針が説明され、延命の確認書も交わされ、重篤の場合は、家族を交えて話し合いを重ね、自宅での看取りを含む適切な支援が選択され、事業所での看取りの場合は、家族が付き添えるように配慮がなされている。	終末期に向けた事業所の方針が説明され、自宅での看取りを含めた適切な選択が出来るように配慮がなされています。利用者家族に事業所の看取りについて、より理解を深めていただくための啓蒙が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故等の研修や実施を踏まえた対応の仕方は随時実施しています。誰でもできる！いつでもできる！を目標に訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練に励んでいます。今年は夜間を想定した訓練します。	夜間想定を含み、年2回の避難訓練・通報訓練が隣接の事業所と合同で行われ、水害の心配がないことも確認されています。また、災害別のマニュアルも整備され、ソーラーパネルの設置や停電時のマニュアル作成など、事業所独自の対策も行われている。	年2回の避難訓練・通報訓練が行われ、水害の心配がないことも確認されています。災害時は迅速で適切な行動が求められます。非常時に職員が求められる行動が取れるように、訓練の継続が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応しています。虐待防止の研修で何気ない言葉遣いでも虐待に繋がってしまうことを学びました。職員一人ひとり改めて個人尊厳の大切さや犯してはいけないことも再認識したと思っています。	他人に聞かれたくないことや知られたくないことは、言葉使いや声の大きさに注意が払われ、居室へ入る場合はプライバシーの場所であることを意識してノックで許可を得るなど、人生の先輩として接するように努められている。個人情報関係の資料は施錠できる場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の方の自己の希望や決定自体がなかなか厳しいことだと思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によっても変わりますが、ご本人のペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着るものや髪形など、在宅での生活での延長となるよう支援するよう心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事提供業者による嗜好調査を実施し、食べたいと思うものを食べられるよう配慮しています。利用者様と一緒に食事準備は感染上の問題や認知症の進行により現状では厳しいです。でも、片付けにおいては食器を下げる行為も危険だが、周りの人たちと、まとめる行為は行えるよう進めています。	利用者の嗜好が反映され、見た目にもこだわった料理が厨房より提供されており、感染防止のため、利用者参加のみそ汁やサラダ作りはできなくなったが、イベントとしてコーヒーやケーキの提供が行われ、誕生日にはケーキと色紙のプレゼントもあり、楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を観察して身体レベルに合った形態を選んでいきます。また、その時には家族様に今までどのようなものを好んで食べていたかも確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後に歯磨きは行っています。必要に応じて仕上げが必要な方や全面的な支援が必要な方への対応となっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	たとえ、尿意が乏しくなっても、「トイレ」と言ってトイレへ行こうとしたり、支えれば立位が取れる方たちにはトイレでの排泄を支援しています。	日中は1人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレ排泄を原則に支援をされ、夜間は各利用者の状況に応じた対応が行われている。適切な支援により、コロナ感染後、立位が取れなくなり、オムツになっていた利用者が、トイレで排泄できるように改善された事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつに関しては毎日の排便・排尿の記録を一人ひとりに残しています。高齢になるとお腹の力も入らなく便秘傾向はどなたでも見られる現象です。日頃の水分摂取量・食事量・集団体操での腹筋体操の提供を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では決まった曜日・時間は施設として定めています。それに対して、午前を午後にしてほしい・今は入りたくない等のご本人の要望は考慮しています。	週2回の入浴日を基本に、利用者の希望をできるだけ叶えた入浴が行われ、母の日のバラ風呂、柚子湯やワイン風呂、日本酒風呂、ミルク風呂など、多彩な入浴を楽しまれている。拒否者にはタイミングや担当を変えるなどの対応が行われている。また、リフト浴も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スタイルやご本人のペースは第一に考えています。気持ちよく眠れるようご本人の要望には可能な限りお答えしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の管理は看護師であるが、現在内服しているお薬は職員間でいつでも閲覧できる場所に置いてあります。個人個人で変更があった場合に更新されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好等はご家族から調査時や来訪時など何度となく伺っています。施設生活の中の役割を受け持ってもらいつつ、日頃の体操やレク、各クラブ活動などで気分転換を図っていただくようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス・インフルエンザの流行が季節性と言えない時期に流行している現在です。施設での支援は厳しいです。しかし、ご家族の協力で、お墓参り、美容院、親族の集まり等の外出は応援しています。	感染防止のため外出の制限が残る中、木々の茂る広大な敷地では、各人の希望による散歩や森林浴、外気浴などが楽しまれ、ドライブなども行われている。また、家族との外食や自宅に帰る孫の誕生会への参加など、密にならないように注意を払った外出が支援されている。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は一律に認めないことにはなっていません。社会生活を送っているときには誰でも、所持していたものなので、持っていたいと希望する方には対応しています。金額や所持の仕方を考慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との面会、電話、手紙等いつでもやり取りなどに応じています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから見える景色で季節の花を植えたり、クリスマスイルミネーションの設置をしました。また、利用者様の手作り作品等でも、季節が感じられるようにしています。	時折野生動物も見かける林の中にあり、組木構造で天井が高く、車椅子も十分余裕を持って動ける共用空間は、利用者と職員の共同制作の作品などが飾られ、家庭菜園ではトマトやカボチャなどが収穫され、ハロウインのカボチャケーキに調理するなどして楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1日を通して独りでいたり、気の合う人たち同士で過ごせるような配慮はしています。日中ゆっくり過ごせる場所はよくお話をされている人同士で並んでいただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で、使っていたものや、ご家族の写真を持ってきていただいています。また、施設でおこなった制作物や誕生会のお写真などを飾らせていただいています。	職員作成のカラフルな表札が飾られた居室は、馴染みの家具や身の回り品、写真などが持ち込まれ、入居前からの生活習慣が継続できる居間が作られている。また、スタッフルームから、各居室の入り口に目が届く、安全、安心に配慮した部屋の配置となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームでの生活者が助け合って生活できるよう、①テーブル席の配慮②入浴の順番③食事の配膳の順④日中の軽作業提供を工夫しています。		

(別紙4(2))

事業所名: 有限会社ヘルパーステーション

## 目標達成計画

作成日: 令和6年1月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化した場合、終末期の指針が入所時の説明だけです。入所後、何年も経っていると忘れがちになっているのではないかと考えています。入所中にもう一度ご家族にお伝えしたいと考えています。	改めて、ご家族にお伝えしたいと思っています。	運営推進会議にて、オープン参加でご家族にお伝えしたいと思っています。	6ヶ月
2	35	避難訓練が、マンネリ化してきている。本当に夜間は大丈夫なのか心配です。	全員が、マニュアル片手に訓練に参加するのではなく、独自に正しく動けるようにしなくてはならないです。	上記と同様、運営推進会議の場で訓練をみてもらい、ご家族にも安心してもらいたい。今回みていただくのは昼間訓練ですが、今後は夜間想定 of 訓練もご家族に見学してもらいたいです。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。